

可能性広がる!!新しい表情をみた!!
ワークセンター
ほほえみ



新潟市秋葉区。信濃川が近くを流れ、正面には田んぼと線路のどかなこの場所に、ワークセンターほほえみ(以下「ほほえみ」)があります。作業室には、何台かの織り機が並び、その前で利用者さん(注1)がそれぞれのペースでさまざまな色の「さ」を織り(注2)「を」を織っていました。

ほほえみの想いは、「加工料(注3)のあまりかからない反物として外に出したい」。従来は完成した織りを決まった商品に当てはめて製品を作っていたほほえみでしたが、今回は、その織りを外部の「作り手(注4)」に見てもらい、一人ひとりの織りの可能性を新しく見出すことを目指します。4組の「作り手」がほほえみの織りと出会って、素敵な商品を作りました。

(注1)「利用者」とは？授産施設で働いている(雇用・非雇用)の形態がある障害者の方達は、施設を利用して「利用者」と呼ばれる。施設によっては「メンバー」「仲間」と呼ぶことも。

(注2)「を」を織りとは、なにもかも自由に手織ります。すべて自己表現であって手本は無い。自分の思い通りに織ればよい。(「SAYONARA」ホームページ)糸が飛び出たまま、隙間が空いたまま、それも個性で作品という考えから、一人一人が好きなスタイルで織ることができ、授産施設でも多く受け入れられている。ただ自由に織れるから授産施設で受け入れられているだけではない。織りの魅力や考え方があるように感じる。

(注3)ほほえみでは、外部に縫製を出し商品を作っているが、縫製のコストが掛かる面もあり、結果として利用者さんの工資が少なくなるといった課題を抱えています。



中嶋

作り手
鈴木康司・友子さん(洋服屋・服飾造形家)

「今まで見たことがないさを織り織りの商品を作りたい」と、さを織り織りのマトリョーシカを作ってくれた鈴木さん。命名は「サマリョーシカ」。織りには可愛らしい色合いが得意なあなたさん、均一に糸が並んだきれいな織りのTTさん、織る速さはほほえみイチで独特の色合いを出すmamoruさん。中のワタは、織りで出た糸くずや、ハギレなどを入れ、「顔も描いてほしい」と鈴木さんからの提案で、何人かに描いてもらった中から、130さんの絵を鈴木さんが選び顔が決定。色っぽい愛嬌のある顔は、布に印刷され、独特の味のある商品になりました。織りと利用者さんの絵(この二つ)を結びつけることで、織りだけでなくほほえみが持っている力の可能性を引き出す。客観的な視点で形にしてくれた鈴木さんのおかげでいい商品が生まれました。



作り手
中川 なぎささん(染色家)

130・Emily

中川さんは、130さんが「松竹梅」と名付けた織りを使って、「升瓶」も持ち運べる角袋を製作。布地を愛する中川さんは、130さんの織りに「目ぼれ。こんな素敵な織りは途中で切りたくない」と、1.5メートルほどの長さを全部生かし、その生地を斜めに使うことで、持った時の見える角度で表情が変わる角袋になりました。織りの現場にも足を運び、130さんに「ファンです」と伝える入れ

込みよう。Emilyさんの織りも、おしゃれなワインが入る角袋に、「自分では織れない生地だから作っていて楽しかった」と中川さん。織った流れを生かしたい。その視点を持つことの大切さを教えてくれる。そんな商品になりました。



中川 なぎさ
[ISANA](喫茶室及び家具ショールーム)店主
ご自身は染色&織り、ご主人は家具を製作
新潟市中央区沼垂東3-5-22
Tel 090-6629-8188
http://isana-furniture.net/

鈴木 康司・友子
「モロッコ」洋服屋オーナー・服飾造形家
オリジナルブランドのデザインも行う
新潟市中央区東堀通3番町471
Tel・Fax 025-222-9116
http://tayukoyu.exblog.jp/

(注4)今回依頼した作り手は、koproの知りあいの4組プロとして製造から販売まで自分で回す流れを行っている方を選んだ。この流れは福祉施設の多くの製品にも通ずると思う。依頼当初は「アイディア料などを支払える方からなかつたが、織りを楽しむから」と快く引き受けていただいた。

(注5)のんたなどの名前？ほほえみでは織り手が目の「作者名」を目で決めていく。ページではすべて織り手としての作者名(表記)を。